

前原みなみ人権だより

NEWS FROM HUMAN RIGHTS



(第72号) 令和6年8月1日発行
糸島市人権・同和教育推進協議会
前原南支部 ☎324-1763

前原南支部人権講演会 「こどもの居場所ってなあに？」

前原南支部では、7月 同和問題啓発強調月間の取り組みとして、講演会と街頭啓発を行いました。

講演会では、いとしま児童クラブ理事長江頭晶子さんを講師に迎え、子どもたちの現状や、子どもたちにとっての居場所、大人の関わり方についてお話ししていただきました。講演会の後、行政区推進委員、常任委員16人で、Aコープ前原駅南店周辺において、啓発物品の配布と声かけをして啓発に努めました。

同和問題啓発強調月間

福岡県では、7月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。

糸島市においても、県の取り組みに呼応し、7月を「同和問題啓発強調月間」と位置づけ、同和問題をはじめとするあらゆる差別をなくすための活動を展開しています。

「こどもの居場所」ぜひぜひ意識して大人が作ってあげたい

市議をお辞めになって、ゆっくり過ごしてあるのかと思っていたら、何とますます頑張っているらっしゃった江頭さん！しばらく「不登校」や「児童クラブ」という言葉から離れていた私には、衝撃と感動の再会でした。

学校に行けないこどもが増えているのだそうです。そんなこどもたちのための居場所をつくる活動をされているのです。

「リースクール」という学校のカリキュラムに準じた活動と認められて出席日数に数えてもらえるところと、「リースペース」という、こどものペースを大事にしてやりたい活動を自分で決めながら、ほかのこどもや、スタッフの方と関わりながら過ごせるところがあるのだそうです。どちらも数が増えてきており、そこに通うこどもさんも増えてきているそうです。そして、校長先生がこどもたちの様子を見に来てくださいるそうです。これを知って、なんだかほっとしました。先生もここにきていることをわかってくれているんだなって。きっとこどもも、校長先生が見に来てくれてほっとしているんじゃないかなと思えました。

リースペースではどんなことをしているのか、たくさん写真で紹介されました。例えば、木材を切って椅子を作っているこどもたち。掘りたてのたけのこの皮をむいているこどもたち。ゲームをしているこどもたち。

写真で見えるこどもたちは、生き生きと楽しそうでした。ほかのこどもさんや、スタッフの方と楽しそうに話しながら過ごしていました。

やってはいけないことは、きちんと理由を説明して、「だからダメなのよ」と教えるのだそうです。

「あせらず、がまんして見守ること」これを続けるうちに、少しずつ生活リズムを取り戻していきまます。時間になったら自分で起きて、行く用意をして自分で行く。帰る時間になったら、やっていることをやめて家に帰ることが出来るようになるのだそう。苦手な生活リズムが整ってくるのだそうです。

大人は、あせらず、プレッシャーをかけず(こどもにも、親にも)、しばらくがまんして見守ってあげます。親や祖父母がルールを敷かない方がいいのです。

私のこどもが小学生の時のことを思い出しました。なるほど、そうだなあ！



講師 江頭晶子さん (いとしま児童クラブ理事長)

詳しく教えていただきました。2022年こども基本法。2023年4月こども家庭庁。2023年12月こども居場所づくりに関する指針が閣議決定。そして、糸島市にもとつてもすきな条例ができるそうです。もうすぐ、9月に！

『糸島市こどもの権利に関する条約』
ぜひ、読んで、できることをしたいなあと思えました。こどもたちの健やかな成長を願って。

人権擁護委員 波多江 純子